



【イベント】EMでの銚田川等浄化活動を発表 銚田市世界湖沼会議プレ大会

7月1～2日の土・日に茨城県銚田市を中心に銚田市世界湖沼会議プレ大会のシンポジウムが開催された。この大会は来年10月15～19日に予定されている第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）の事前PRも兼ねての催しだ。1日（土）は梅雨時の典型的な天候で小雨が降り続く中、「いこいの村潤沼」でのシンポジウムのガイダンス、北浦での水鳥と野草観察、ホテルホールでの銚田市立小学校児童による自然保護研究のワークショップが行われた。

このプレ大会で事務局を務めているのが、銚田市でEMを活用して河川浄化や生ごみ堆肥化を推進している市村はつゑさん。市村さんはU-net茨城県世話人、地元の環境団体「西台虹の友」代表で「霞ヶ浦をきれいにする会」副代表でもある。

潤沼での観察会は天候悪化のため中止となった。潤沼は一般的にはワカサギやハゼ釣りで有名だが、ヤマトシジミの産地であり水鳥が多く生息する自然豊かな汽水湖。水鳥の生息地としての湿地保護を定める国際的なラムサール条約の日本で50番目に登録された湖沼でもある。

北浦での水鳥観察は、準絶滅危惧種カムリカツブリの子育てに遭遇できるはずだったが、残念ながらできなかった。

たまた、北浦湖畔に咲く野草の絶滅危惧種ジョウロウスゲは見る事ができた。



銚田小学校の自然保護研究発表

1日目のハイライト「自然保護研究ワークショップ」はホテルニュー麻生のホールで行われた。参加する小学校は銚市内の3校で、旭北小・銚田小・白鳥西小の児童がパワーポイントを活用し出来栄の良い発表だった。特に銚田小は市村さんが長年にわたりプール清掃、EMダンゴ作り等環境教育や銚田川浄化活動を一緒にやっているの、なじみが良かった。また、会場200人を超える観客の拍手も一段と高かった。また、会場ホール入口や壁面には市内団体のパネルも展示され、EMでの河川浄化等のパネルも貼られ、観客の目を奪っていた。



北浦での水鳥と野草の自然観察会